

モンゴル 日本語ボランティア&文化交流プログラム

<http://www.cecj.net/mongolia/index.html>

活動の目的

日本語教室でのボランティア、現地の学生との交流そして大自然、草原を堪能しましょう。
おひとりさまから参加できます。

誇り高き遊牧の民が築いた草原の国

モンゴルは、南北を中国、ロシアという大国に挟まれたモンゴル高原北部に位置する内陸国です。日本の約 4 倍(156.4 万平方 km)の国土面積に、京都府とほぼ同じ約 270 万人が暮らしており、その約 4 割(約 111.2 万人)が首都ウランバートルに居住しています。地方では現在でも伝統的な移動式住居「ゲル」に暮らす遊牧民が多いのですが、近年は携帯電話の普及や衛星放送による大相撲中継観戦など、遊牧生活の現代化が進んでいます。



ウランバートル市内をはずれるとその先は、手付かずの草原が視線の届く先までずっと広がっています。日本でも北海道などでは見れる光景かもしれませんが、都会から訪れた者にとっては本当に感動的です。

担当者が撮影した写真(この資料で紹介している写真です)は、9 月末の夏の終わりであって、3 月の時期は雪一色になっていることでしょう。

モンゴルからみた日本人

現在のモンゴルの大きな経済関係国はロシアと中国ですが、次にくるのが日本なのです。モンゴルの人たちは日本に好意を持つ人が多いです。

外務省が現地の大使館で行った日本に関する世論調査(2004 年実施)では、モンゴルが最も親しくすべき国はどこかとの回答に、日本と答えた人が最も多く 37.4%、次いでアメリカ 35.1%、ロシア 28.2%でした。日本に親しみを感じる人は 7 割を超え、日本に対するイメージは「経済力・技術力の高い国」が 75.9%でダントツでした。

それから 8 年、日本の経済はいまかなり深刻で、モンゴルでも中国と韓国の力が経済に強い影響を及ぼしています。しかし、それでも、日本人に対してみなさん好意を示してくれているのは、日本がかつてモンゴルに多くの援助をしてきたからなのでしょう。

東日本大震災のときにはモンゴルでは、国家公務員の給与 1 日分を全員が寄付することを決め、1 億円以上を集めた。モンゴルの GDP は日本の 20 分の 1 なので日本人の感覚からすれば、20 億円を集めた計算になります。

そんな国だから、何かしてみたい！

2012年の9月末にはじめて担当者がウランバートルを訪れました。現地で多くの人達との出会いと協力をもとに、この国でのボランティア&文化交流プログラムをするに至りました。

宿泊施設 コーディネーターのオフィス近くのホステル



滞在するホステルは清潔です。ツイン、またはトリプルの部屋で滞在します。シングルルームではありません、ご了承ください！



英語圏の人達がよく利用しています。インターネットも無料で利用可能です。



滞在するところは一番大事な部分です。ご参加のみなさんに経済的な負担をかけず、それでも、安全性と利便性がよく、清潔感の高い宿泊施設を探すのに時間をかけました。数多くのホステルを視察したなかで、やっと良い場所を探し当てました。

このホステルのオーナーの兄弟はアメリカで教育を受けたので、英語がとても上手です。

ミニキッチンもあるので、簡単な自炊をすることも可能です。滞在期間中安心して滞在出来る場所です。コーディネーターのオフィスから徒歩4分程度、また、ボランティア活動をする子供たちの日本語教室からも徒歩5分程度の場所です。

現地のガイドさん(ラクチャさん)



ガイドの一人、ラクチャさん。日本語の通訳者として2000年にモンゴル人文大学を卒業しました。それ以来、ガイドの仕事を始め今年で13年目です。ラクチャさんを始め、日本語のガイドがこのプログラムの協力者として、お手伝いさせていただきます。最初の日にみなさんに知っておいていただきたいこと、バスの乗り方、荷物の管理の仕方など、日本とは違う気のつけかたがあります。現地の行動規範をしっかり学びましょう。

個人参加の場合は現地の日本人コーディネーターに手配をお願いしています。

現地コーディネーターをする会社 MTAトラベル (グループ参加の場合)



現地のコーディネーターは、日系の会社の旅行部門です。担当者も日本での生活が長く、日本人が期待するサービスなど熟知しています。

ボランティア活動先 子供たちの日本語教室



元気な子供たちです。右の写真は折り紙を題材に「考える」そして「工夫する」力を学んでいます。折り紙を教育に使っているのを見てちょっと感動しました。幼稚園から高校生ぐらいまでの子供たちに日本語を教える教室です。生徒数はおおよそ 250 名とのことです。日本人の先生も 2 名在籍しています。この日本語教室でボランティアとして日本からの文化紹介(日本のうた、遊びなど)を披露し、子供たちに学んでもらいます。



午前中に子供たちに日本語を教えるボランティア活動を行います。

このプログラムを内容深いものにしてくれる現地のパディ(友人)



モンゴル国の首都・ウランバートルにあるモンゴル・日本交流センターの学生さんたちです。

現地で日本語を勉強する学生にとって、日本人と話す機会がほとんどありません。だから、みなさんと出会うこの機会はとても良いことなのです。学生さんたちは、すごく楽しみにしています。現地の学生さんたちとの会話の中から、モンゴルの事、日本の再発見などいろんなことが学べるはずです。

ウランバートルの観光



ウランバートルの街の様子 モンゴルの首都ウランバートルの中心にあるスフバートル広場。



この広場の見所は政府宮殿に設置されたチンギスハーン像と2011年の夏にリニューアルされた革命の英雄スフバートルの像。夏場は夜10時近くまで地元の人が遊んでいるほど日が沈むのも遅く観光には最適。冬場は地面がとても滑りやすいので転倒に注意して下さい。



博物館も多くあります。左) 民族博物館 右) 自然歴史博物館(本物の恐竜の骨があります)

一言: 恐竜の骨なんて・・・と思って行ったのですが、今の動物にはない生き物がいた事を再認識できたのは良かったです。入場料も確か 200 円程度だったと思います。是非一度見に行ってください。

モンゴルで体験していただきたい場所へ

大草原と自然、馬や牛や羊たちなどを見にフィールド・トリップをしてみませんか。8月9月は最高の季節になります！現地コーディネーターがアドバイスをします。HISなどの旅行会社もありますので、情報は簡単に入手できます。



岩山が多く、日本では見れない地形が続くウランバートルの東テレルジへの日帰りツアーなどいかがでしょうか？

3月はまだ寒いですが、真冬の格好であれば、乗馬も大丈夫です。



ウランバートルの西は草原が続きます。夏は緑豊か、担当者の訪れた 9 月末はもう色が黄色く変わっていました。このあと、4-5 月くらいまでは雪景色になるそうです。

右の写真: 遊牧民の人たちが移動に使う荷車です。ゲルや家財道具一式を積んで移動しながらの生活をいまでも続けています。



草原で、おしゃれなログハウスと、ゲルでの滞在をするキャンプ場を経営する家族のところを訪れました。

サンプルスケジュール

DATE	午前	午後・夕刻
1	日本からウランバートルへ	到着後 Hostel へお連れします。
2	子供日本語教室訪問	午後からもオリエンとして市内を回ります。現地学生と会います。
3	子供日本語教室ボランティア	モンゴル・日本交流センター
4	子供日本語教室ボランティア	モンゴル・日本交流センター
5	子供日本語教室ボランティア	モンゴル・日本交流センター
6	オプションツアー テレルジー日観光 チンギスハン公園観光、岩山、乗馬など	
7	日本へ帰着	

プログラムの性質上、パッキングツアーのような固定されたスケジュールがあるわけではありません。現地での活動は受け入れ団体の状況と参加者の意思を尊重しています。必ずしも毎回同じスケジュールで活動するものではありませんので、柔軟にお考えください。

毎日必ずボランティアする必要はありません。疲れたときは休んでください。また、観光なども同時に楽しんでください。

募集要項

個人(お一人様)での参加が可能です。

プログラム参加期間	プログラム参加費用
1 週間 6 泊 7 日	82,000 円
2 週間 13 泊 14 日	102,000 円
3 週間 20 泊 21 日	122,000 円

<プログラム費用に含まれるもの>

現地到着時の、ウランバートルの国際空港からホステルまでの送迎

帰国時のホステルから空港までの送迎

ホテル滞在費用(2 名一室のホステル)

CEC プログラム手配費用

滞在期間中の現地でのサポート: 英語や日本語での会話となります。

<プログラム費用に含まれないもの>

ウランバートルまでの往復航空券 日程に合わせるために、指定した航空券を、ご自身で手配されるか、または、CEC の協力旅行会社でご購入ください。

海外旅行保険加入費用

食費、観光地費用などの個人的費用

ホステルでは食事はできません。近くの食堂で、250 円程度です。女性の方はそれだけで、十分一食分になります。市内に行くと、外国人客相手のレストランがあり、そこは、もっと高くなります。日本並みに費用がかかるレストランもあります。

<お申込方法>

参加申込フォーム(<http://www.cecj.net/mongolia/entry/index.html>)から必要事項をご入力いただき、送信ください。申込金の 20,000 円はフォームの送信後 3 日以内に CEC の口座までお振り込みください。申し込みフォームと申込金の到着を以って成立とさせていただきます。

申込の際の留意事項

- パスポートの残存期間が入国時滞在日数プラス 6 ヶ月有効であることをお確かめ下さい。無い場合は更新ください。

● 未成年者の方は、保護者の方から、別途参加同意のメール(携帯メールやファックスでも可能です)を CEC までお送りください。

● WEB 上でプログラム参加条件をご確認いただいた上で、お申込みください。

★ 1ヶ月までは日本人はビザなしで滞在可能です。

モンゴル日本語教育実習レポート

●●奈緒●●奈菜子

1. 活動内容

1-1. モンゴル日本青年交流支援センター

大抵、9:00~12:00 まで授業をしました。(本来の授業は 13:30 までですが、次の学校の授業との関係で少し早めに終わらせていただきました)、文法導入と句型練習、次回授業の新出単語の説明と今回は日本留学の奨学金のための面接が近かったため、面接練習のほとんどを任せていただきました。年齢層は、高校生から年配の方まで、幅広い方が勉強しています。奨学金での留学を目指す生徒かや趣味で日本語を勉強したい方など、目的は様々です。使用した教科書は『みんなの日本語』、漢字は別で教科書がありました。

1-2. ビルグンノムチ小中学校(小中高一貫校)

14:00~15:30 までの授業で、低学年は主に歌や折り紙、ゲームなどの文化中心、高学年はひらがなや数字など、初級の日本語クラスと、簡単な会話をするクラスの 2 クラスに分かれて授業をしました。一日 40 分 1 コマ×2 で、1 コマ目は低学年、2 コマ目は高学年での授業で、低学年は二人で、高学年は分かれての授業でした。

2. 活動にあたっての注意点

2-1. モンゴル日本青年交流支援センター



文法導入など、結構本格的に文法を教えるので、手引きがありますが、文法など日本語教育に関する知識があると準備や授業がスムーズにいきます。様々な日本事情についても聞かれるので、新聞を読むなど知識をつけておいた方がいいと思います。(例:日本の結婚式について)また、それを噛み砕く簡単な日本語に直す必要があります。プリントを作成する場合、パソコンがあると便利です。先生が印刷、コピーしてくれます。生の日本語に触れる機会があまりないので、漫画や絵本など簡単な日本語の本を持っていくと喜ばれます。因みに、私たちはモンゴルで人気の『NARUTO』や『ワンピース』、『ドラゴンボール』『ちはやふる』の 1 巻をそれぞれ持っていき、寄贈しました。

2-2, ビルゲンノムチ小学校



日本語が通じる先生が1人(バスカさん)と英語が通じる先生が1人(アツザさん)ずつしかいませんでした。バスカさんはツアーガイドの仕事もしているの、毎日いるとは限りません。生徒の中に日本語が話せる人が少しいます。本来は日本語教室の開講は10月で、今回は善意で少し早く始めていただいたからなのか、ひらがななどの教材が全くありませんでした。文化や遊び中心なので、たくさん色々なことができるといいです。(例:折り紙がいろいろ折れる)私たちは手裏剣やかぶとなどをしました。すごく人気で盛り上がりましたよ。また、15分前行動も大切ですが、早めに着きすぎると言葉が通じないモンゴル語の中でぎ

りぎりまで待つこととなります。移動はバスなのですが、道が大変混雑するので、バスに乗るのは早めに、早く着いて近くのカフェで時間を潰すなどした方がいいと思います。バス内のスリには気を付けてください。

2-3, その他

両方共に臨機応変に対応することが必要とされます。私たちは顔合わせと聞いて行くと、いきなり授業をすることになりました。何も準備をしていない中での授業は少し大変でした。また、知識や持ちネタがたくさんあると困りません。

3, 生活に関して

朝ごはんだけホテルで出ます。(パン・目玉焼き・シリアル・バナナ)昼・晩は自分たちで食べました。私たちは昼は移動先のカフェ、晩は外で買って来たものをホテルで食べたり、外で食べたり。近くにノミンデパートというデパートと、そこから南に向かう公園の近くにたくさんカフェがあります。モンゴルの人たちがよく行く安い食堂などで食べた場合、1人1食 5,000tg(約350円)程度、カフェや少し高めのレストランの場合1人1食 7,000tg(約490円)程度です。

バスは距離に関わらず1回 400tg(約28円)で先払いです。トロリー(?)は行く範囲は狭いですが、1回 200tg(約14円)です。双方スリに気を付けてください。

服装は、今回は少し寒かったので秋や冬の恰好がいいと思います。私たちは夏の装いが多かったので寒かったです。モンゴルは乾燥しているからなのか、30℃くらいまで上がっても長袖で大丈夫です。テレルジに行くなら、ダウンなど冬支度をした方がいいです。いらないだろうと思っていたカイロが大活躍でした。日差しが少し強い気がしたので、帽子とサングラスがあると便利です。朝晩が冷えますが、昼間は暖かく気温差が激しいので、体調に気を付けてください。風避けになる軽い上着やマフラー、ストールがあると体温調節しやすいと思います。

観光地でのトイレにはお金が100、200tg程お金がかかります。また、トイレトペーパーや手を洗う場所がなかったりするので、私たちは水に流れるポケットティッシュやウェットティッシュを持ち歩っていました。

4. 滞在先に関して

とても親切な方ばかりなので何かあればどんどん言ってください。しかし、英語しか通じません。コンセントは C 型と B2 型 (?) 2 つが 1 つずつ、1 セットになっています。とても綺麗な部屋なのですが、私たちの使用した 7 号室は 3 つあるコンセントの内、1 つは全く使えず、1 つは接触が悪く、結局たこ足を借りました。また、7 号室は wi-fi が部屋に届かないので、私たちはキッチンで使っていました。また、気まぐれで繋がらないことも多々あるので、あまりあてにしないようにしてください。

ホテル内は土足厳禁なので、スリッパの貸し出しもありますが自分のを持っていく事も出来ます。

キッチンがありますが、自炊にはあまり向きません。今年だけかもしれません、ハエがとても多く、あまり使いたい状態ではありませんでした。私たちは部屋のハエはハエたたきを借りて対処しました。

水道水は基本飲めません。ホテルで 1 本 600tg(約 40 円)で売っていますが、ノミンデパートなのは安いもので 350tg(約 25 円)であります。初め、気を使って水を買っていましたが、しっかり煮沸したもので余程胃が弱くない限り大丈夫だと思います。そこに水出し緑茶を入れて飲んでいました。

本当にびっくりするほど乾燥します。タオルなど、薄手のものは一晩で乾いてしまうほどです。乾燥防止のマスクがあれば快適かもしれません。排気ガスなど、空気が悪いので、呼吸器が悪い人は普通のマスクも必要かと思います。肌が気になる方も乾燥予防をしっかりとしてください。

洗濯はスタッフに頼むとしてくれますが、少しお金がかかるそうです。(私たちは自力でしていたので、値段までわかりませんが…)

トイレ・シャワーは共用ですが 4 つもあるのであまり困ることはありません。トイレトペーパーは流せないの、便器近くにゴミ箱があるのでそこに捨ててください。いつでもお湯がちゃんと出て、何時までに浴びるなど時間制限もないのでとても気軽でした。

5. 感想



今回、ウランバートルの街だけでなく、遊牧民の生活を体験しにテレルジという草原地帯に行きました。ゲルに泊まることはできないと思っていたのですが、安齋さんの計らいと日本語のできるガイドさん(ビルグンノムチの先生・バスカさん)のお蔭で、満天の星空も見ることができました。他にも乗馬体験など、日本人がまず想像するモンゴルというものを体験できたと思います。

モンゴルの人たちはとても優しく、親切です。お世話になった先生は教材など手助けをしてくれますし、勉強している学生も一生懸命でこちらを気遣ってくれる人ばかりです。また、町の人も言葉が通じない私たちに対して、モン

ゴルの紙幣がわからない私たちの代わりに財布を見て清算してくれたり、博物館では日本語ができる館員でもない方が教えてくれたり、バスの中で荷物を持つと言ってくれたり、本当に親切な人たちばかりでした。ビルグンノムチ小中高一貫校の子供たちも笑顔でとても可愛かったです。私たちが大学で学ぶ日本語教育とは違う、本当にひらがなもわからない初級者への授業はとてもいい経験になりました。

この二週間は、自分たちの学んでいること、将来について考えるととてもいい機会だったと思います。そして、モンゴルは人の温かさをひしひしと感じる国でした。このボランティアを勧めてくださった池頭さん、そしてモンゴルでお世話になった安齋さん、ゲル体験に連れて行ってくださったガイドさん、温かく迎えてくださった学校の先生方、本当に人に恵まれたモンゴルボランティアでした。

●●奈緒・●●奈菜子

お問合せは下記までお気軽にご連絡ください。



532-03 大阪市淀川区宮原 1-16-2-604

Tel 06-6397-7030 e-mail info@cecj.net

<http://cecj.net>

モンゴルプログラム WEB ページ <http://www.cecj.net/mongolia/index.html>